

日経平均株価

2万2865円15銭

▼4円35銭(前日比)

TOPIX

1735.35

▼3.79(前日比)

2018

9/3

月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心齋橋ビル6F

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



目玉は任天堂の初出展

東京ゲームショウ2018開催へ

今年も東京ゲームショウが
幕張メッセで開催される



細は不明
ながら、

「モン
ターハン

が初出展
すること
だろ。出
展する
のは20
日と21
日のビ
ネスデ
のみで
詳細は
不明な
が、

「東京ゲームショウ2018」は36社が出展（7月3日現在）を決めており、出展小間数は過去最高を更新、今年も盛り上がることは間違いない。株価面では8月に中国の規制当局がゲームライセンスの承認を凍結したことで、ゲーム

関連株が軒並み急落していたが、主要企業の多くは欧米と国内の販売比率が大半を占めており、出展される新作タイトルへの評価が高まれば、株価も戻りを速める可能性は高そうだ。出展企業で最も話題を集めそうなのが任天堂（7974）

20年以上の歴史を持つゲームショウで、同社が初めて出展するだけにサプライズとして評価されるのは間違いない。ハード面では、海外での普及台数からもソニー（6758）のプレイステーション4（PS4）対応ソフトが今年も注目されよう。ソニーは「モンターハン

出展小間数は過去最高

一般社団法人コンピュータエンターテインメント協会（CESA）が主催する「東京ゲームショウ2018」が9月20日から幕張メッセ（千葉市美浜区）で開催される。毎年9月に開催されている日本最大規模を誇るゲームショウは、米国のE3や独・Gamescomと並ぶ世界3大ゲームショウとして海外からの関心は極めて高い。年末商戦へ向けてのハードメーカーやソフトウェアメーカーを含めた各社の出展内容は中期的な業績と株価動向を占う上で注目を怠れない。

日経平均日足チャート



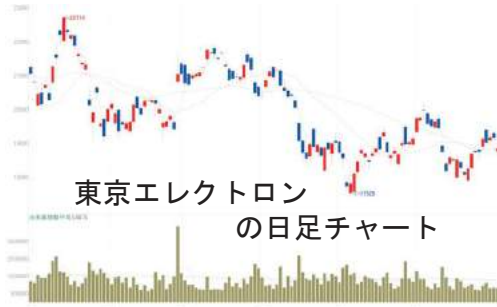
ター・ワールド」が全世界で1000万本を出荷したカプコン（9697）。今回はPS2で大ヒットしたタイトルのリメイク版となる「バイオハザードRE2」が公開される予定。先の第1四半期決算発表でも開発の意欲を見せていたことから、その内容が確認されれば業績上ブレ期待が高まりそう。加えてeSportsとして展開している各社のゲームタイトルも注目されよう。

今週の動意銘柄

半導体関連株高い

フィラデルフィア指数4日続伸

週明け27日、東京エレクトロン(8035)やSCREENホールディングス(7735)、アドバンテスト(6857)など半導体関連株が高い。米国株市場でエヌビディアやアプライド・マテリアルなど半導体株が買われ、フィラデルフィア半導体株指数が前週末まで4日続伸となるなど上



東京エレクトロンの日足チャート

昇基調が鮮明になったことで、東京市場にも関連銘柄物色の流れが波及。海外関連株に対する出遅れ感からもリバウンド狙いの資金を集めた。
アルメデオ連続S高
27日、アルメデオ(7859)が連続ストップ高で年初来高値更新。高集中度・高分散カーボンファイバーのマスターバッチ、塗料ベースの開発に成功したと発表したことを引き継ぎ材料視。従来品のミルド粉末や加工品では難しい成形品細部への充填が可能という。すでに7月20日からサンプル出荷を開始しており、早期収益貢献へ期待が高まった。

琉球銀は希薄化懸念
27日、琉球銀行(8399)が急落、年初来安値を更新した。24日引け後、新株400万株の公募増資と上限60万株のオーバーアロットメントによる売出しを公表しており、一株利益の希薄化懸念や需給悪化懸念が高まった。

スルガ銀は岡野会長辞任

28日、スルガ銀行(8368)が続伸。岡野光喜会長が、シエアハウス投資を巡る不適切融資問題で引責辞任する意向を固めたと報じられたことがポジティブ視されているようだ。岡野氏は創業家出身で30年以上トップに君臨早ければ9月中にも辞任する見通しだと

イーグルン一転大幅減益

28日、イーグルンド(3294)が急反落、年初来安値を更新した。19年3月期の単独業績予想を下方修正したこととを嫌気。通期について売上高を22.2億7800万円から19.6億円(前期比

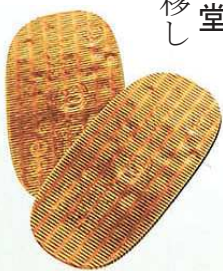
JストリームはS高

28日、Jストリーム(4308)がストップ高。「マルチCDN」サービスがテレビ朝日の動画配信サイトや番組宣伝動画などの動画配信基

正直いいさんの株で大判小判

31日の東京市場は朝寄り直後には日経平均で190円超下げる場面もありましたが、円高一服や中国8月製造業PMIが市場予想を上回ったことなどから戻す動きになりました。NY市場を含めてこれは当然の動きであり、売り一巡後に戻す動きは、底堅さを印象付けたとポジ短期値幅展開するジ日で新値を押し目があればす。ピックアツ(9474)が新567)は高値ヤマコ(7408)、任天堂(7974)も底堅く推移しました。任天堂は東京ゲームショウ2018の開催接近で新たな話題に期待です。花咲翁

底堅い動きはポジティブ



花咲翁

4・6%減)、営業利益15億4000万円から9億3000万円(同34・1%減)へ。中古マンション販売不振で一転して減収大幅減益となる。

サムティ上方修正

29日、サムティ(3244)が急伸。18年11月期の連結業績予想について、

売上高を640億円から780億円(前期比29・0%増)へ、営業利益を110億円から130億円(同28・3%増)へ、上方修正、期末一括配当を52円から96円(前期47円)へ大幅に引き上げたことが材料視された。

企業観察 三社電機製作所(6882)

2Q修正計画は最低ライン

三社電機製作所(6882)は19年3月期第1四半期決算で連結営業利益5億300万円(前年同期比3・0倍)と利益が急拡大、第2四半期予想を6億5000万円から8億円(同43・9%増)に引き上げた。ただ、半導体ウエハを中心とした原材料の値上がりや成長投資の積み増し、米中通商問題などを加味した慎重な見通しで「現時点で算定した最低限達成可能な数値」という。通期は17億円(前期比15・3%増)と期初計画を据え置いたが、下期型の事業構造を考慮すればおのずと収益上振れ期待が高まる。

下期型構造で通期上振れ期待

1Qは半導体は各種インバータ向けモジュールや白物家電向けパワーデバイスクリートが堅調に推移、電源機器は銅箔生成用や電解コンデンサ用アルミ箔のエッチング用など大型電源に加え、小型も各種組込電源が伸び、中国製造子会社の生産性向上による収益改善効果も利益を押し上げた。通期計画達成へ2Qは一段のコストダウンへ取り組みを強めているが、中期計画に沿った燃料電池用や蓄電池搭載インバータへのシフト、リチウムイオン電池素材の強化など、需要分野へのアプローチによる売り上げ拡大策も粛々と進めている。

30日、ビジネスブレイン太田昭和(9658)が大幅反発。19年3月期の第2四半期累計の連結業績予想を修正、営業利益を3億円から5億8000万円(同1・0%増)へ、純利益を2億円から3億8500万円(同0・3%増)へ上方修正した。受注が堅調に推移、コンサルティング・システム開発の販売価額や品

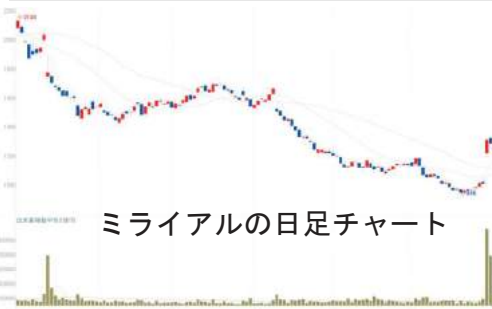
質改善などにより利益率が向上している。30日、文教堂グループホールディングス(9978)がストップ高。不祥事によりノーベル文学賞発表が見送られるなか、これに代わる文学賞創設を目指す団体が、最終候補に村上春樹氏ら4人を選んだと報じられたことが材料視された。

文教堂ストップ高

ビジ太昭利益予想増額

ミライアルはS高 半導体活況で上方修正

29日、ミライアル(42)がストップ高。19年の第2四半期累計の連結業績予想の修正を発表、売上高を44億円から49億円(前年同期比16・9%増)へ、営業利益を4億5000万円から6億円(同4・7%増)へ、純利益



を4億円から5億5000万円(同15・1%減)へ上方修正した。半導体業界やシリコンウエハ業界の活況、稼働率向上

とコスト合理化も利益を押し上げている。29日、ネオス(3627)がストップ高。大和証券を割当先とする第三者割当で、行使価額修正条項付新株予約権を発行すると発表したことを受け、希薄化と需給圧迫が懸念された。新株予約権数発行による潜在株数は100万株で、希薄化は最大で10・55%となる。手取概算約8億6000万円はIoTや人工知能関連事業への投資や費用に充てる。

ネオス希薄化懸念

海外勢の売り越し続く

8月相場が終わりました。日経平均は3カ月連続の陽線形成でしたがTOPIXは反落しました。NT倍率13倍超が続いており、日銀がTOPIX連動型ETFへの配分を分厚くした割には日経平均主体の上昇が続きませんでした。

8月30日に8月第4週の投資部門別売買動向が発表されました。現物株市場での海外投資家動向は4週連続売り越しで売り越し額は840億円、また個人投資家は4週ぶりに売り越しに転じ、437億円の売り越しとということでした。日経平均は8月21日より8連騰しているにも関わらずです。

では誰が買い越して指数を引っ張り上げたのかという海外投資家が先物市場で2243億円の買い越しとなっていました。長期資金が流入している訳ではなく、短期指向の資金による仕掛けということになりますので、相場は決して強い訳ではありません。 日々勇太朗



転ばぬ先のテクニカル

PBR1倍と割安

患者60名をCP群(コラーゲンペプチド10g/日

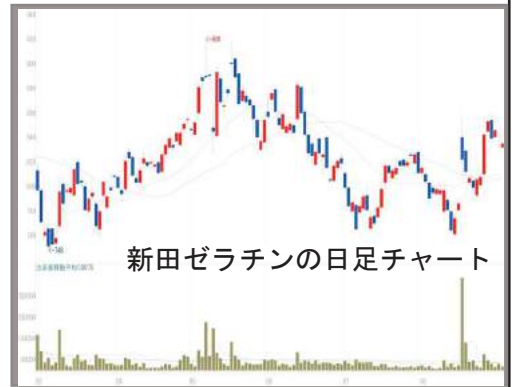
今期18.7%営業増益目指す バイオ分野への展開にも期待

新田ゼラチン(4977)

新田ゼラチン(4977)はゼラチンで国内トップを誇り、兼営のペプチドを含めて事業をワールドワイドで展開、堅実経営からもPBR1倍前後の株価は割安感強く、800円割れから出直りに転じた局面は狙っていききたい。

コラーゲン素材事業で展開するゼラチンは、健康志向の高まりやドラッグストアの店舗数増加などにより、健康食品の需要が増加し、カプセル用の販売が堅調に推移、コラーゲンペプチドはアジア向け販売が減少するもコストダウンなどの製造原価低減効果で利益は拡大。これにより19年3月期は第1四半期営業利益で2億8700万円(前年同期比4.5%増)と増益を計上しており、通期予想である13億円(前期比18.7%増)達成へ向け順調に推移している。

摂取)とプラセボ群(難消化性デキストリン10g/日摂取)の2群に分け二重盲検法による臨床試験を実施。その結果、プラセボ群と比較し、CP群で空腹時血糖値とHbA1Cが有意に減少し、インスリン抵抗値も改善している。この研究により、コラーゲンペプチドがII型糖尿病の改善や予防につながる栄養補助食品として有用であることが確認されたことから、細胞培養を含めてバイオ分野でも同社の存在感が高まろう。

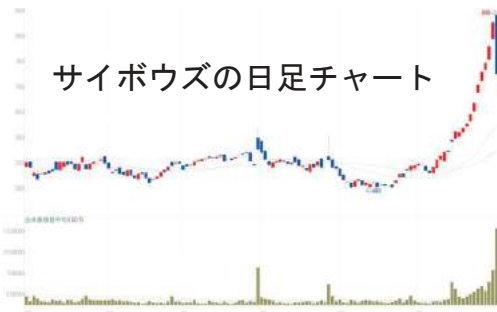


特選銘柄

インドの病院において、II型糖尿病

サイボウズは急反落

7月95%増益も計画の範囲



30日、サイボウズ(4776)が急反落。7月の月次動向で連結売上高が前年同月比18%増の8億8400万円、営業利益は95%増の1億2600万円と大幅増収で利益が急拡大した。ただ、1~7月累計の売上高は前年同期比20%増の64億7000万円、営業利益は31%増の11億9600万円と計画の範囲

夢展望はS高

住商ブランド子会社化

1週、週末3日、夢展望(3185)がストップ高。女性向けヘアアクセサリーを運営する住商ブランドマネジメントの子会社化することを発表された。住商ブランドマネジメントはナラカミイチエを77店舗展開している。

00万円と計画の範囲

囲内で、株価は前日まで9連騰し連日高値を更新し、好業績発表を契機に利益確定売りが優勢になった。

希薄化と需給圧迫を懸念した売りが殺到した。新株予約権は3万3000個で潜在株式数は約24%増加。調達資金約3億2000万円は新規ネイティブアプリゲームの開発・運営費用などに充てる。

バリューDストップ高

31日、バリューDサイン(3960)がストップ高。りそなグループが提供を開始する「りそなキヤッシュレス・プラットフォームフォーム」へハウスプリペイド管理機能「バリューカードASPサービス」を提供すると発表し、収益貢献を期待した買いが殺到した。

今週の動意銘柄

潮流

2万3000円は通過点

潜在的な買い戻し余力は大きい

marKet / bAnk

米株式市場が急上昇。続いてアメリカとカナダの協議に進展の兆しが見えたため、さらに米国株は大幅に上昇した。

多くの機関投資家が運用指標とするS&P500種株価指数は連日で過去最高値を更新。ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数は初めて8000ポイントを超え、連日で史上最高値を更新した。米ダウ30種平均が過去最高値を更新するのも時間の問題だ。今度はアメリカと中国との貿易問題に和解のニュースが報道される日が来るだろう。日本の株式市場には最もプラスの影響を与えることになる。

トランプ大統領に関して悪材料は出尽くしており、11月の米中間選挙が近づくに連れて悪材料が好材料に変わっていくことになる。海外投資家は株価指数先物を約4兆円の売りが残っている。潜在的な買い戻し余力は大きい。8月28日と30日に日経平均は一時2万3000円まで上昇。取引時間中としては6月12日以来の2万3000円回復となった。2万3000円処では売りが優勢になってはいるが、節目を上回るチャンスは続いている。

アルバックの日足チャート



5月21日の高値（2万3050円）から数えて、日経平均が2万3000円の節目を試すのは今回が4

アメリカとメキシコが北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉で大筋合意したことを受け、

度目である。当然この3カ月の累積取引量は2万3000円付近で膨らんでいる。逆に2万3000円より上の価格帯での取引は少ない。過去1年で見ると2万2500～2万3000円の累積売買代金は193兆円

と多いが、2万3000～2万3500円では16兆円、2万3500～2万4000円では46兆円にとどまる。2万3050円を抜いた後には1月高値（2万4129円）まで一気に上昇するという展開も考えられる。

東証1部の空売り比率は引き続き高く（23営業日連続で40%を上回っている）、日経平均の節目ブレイクをきっかけに買い戻しが強まる可能性が高い。海外投資家は株価指数先物を約4兆円の売りが残っている。潜在的な買い戻し余力は大きい。今後、日経平均は2万4500円を目指すだろう。2万4500円というのは、5月21日高値（2万3050円）から7月5日安値（2万1462円）までの「下げ倍返し」となる水準である。2万3000円は単なる通過点だ。

潮流銘柄はアルバック（6728）、RPAホールディングス（6572）、シルバライフ（9262）。

約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



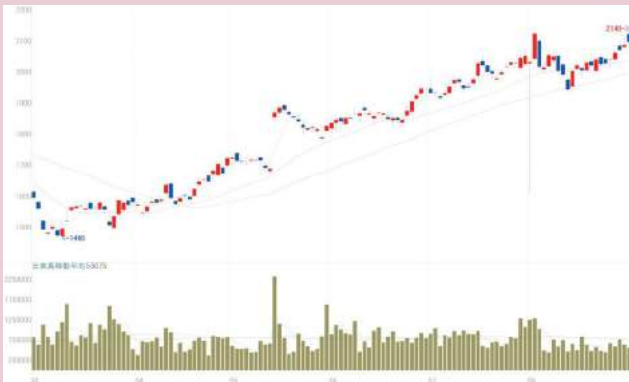
岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて

5月からの下げの倍返し

チャートから読む 騰落銘柄

東洋製缶GHD(5901)



8月13日に194円まで調整していたが25日移動平均線を上抜き、8月2日の年初来高値2123円を突破する。貸借倍率0.22倍と需給面も支援、中長期的に99年の最高値2930円奪回に期待。

理想科学工業(6413)



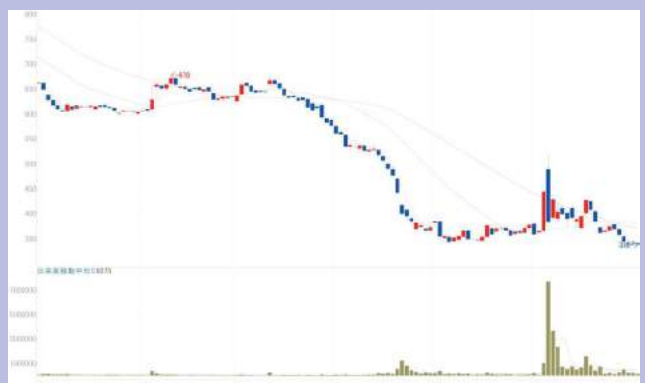
マド空け急騰後のスピード調整完了。25日線にタッチしたところから急速に切り返し、再び新値を更新する。業績上振れ観測に加え、自社株買と信用倍率0.20の好需給も株価を押し上げていく。

すかいらーくHD(3197)



8月27日に1662円まで上昇していたが、値を崩す動き。1600円を維持できなければ7月13日の安値1554円割れも意識されそう。18年12月期は繁忙期の3Qでの既存店伸び悩みも懸念材料。

大塚家具(8186)



戻り試すが13週線に上値を抑えられ再び下落。日足が陰転し、大勢下降トレンドを脱せず、下値模索が続く。経営再建へ不透明感が強く、買いは入りづらい状況で、依然として底入れ感はない。

今週の

活躍期待銘柄



三精テクノロジーズ(6357)

大幅増収増益達成へ順調

三精テクノロジーズ(6357)は8月13日の1430円を底に戻す動きで25日移動平均線を回復してきた。7月の揉み合いゾーンである1600円を抜けてくれば、6月12日の年初来高値1864円奪回が期待できよう。舞台設備と遊戯機械の大手で、テーマパークなどで同社の技術が活躍している。大型の公共ホールや大規模コンサートに絡む受注が貢献し、今年3月期は第1四半期累計(4~6月)で連結売上高は115億2600万円(前年同期比85.9%増)、営業利益で7億2800万円(同62.5%増)と大幅な増収増益を達成した。通期予想である売上高520億円(前期比90.6%増)、営業利益43億5000万円(同96.7%増)達成へ向け順調に推移。Vekoma社買収効果も期待される。(と)

Vekoma社買収効果も期待



ソースネクスト(4344)

次世代機いよいよ7日に発売

ソースネクスト(4344)は7月に年初来高値を付けてから、2カ月弱の調整を経て本格反騰に転じてきた。7日に次世代機「ポケットクワ」発売控え、収益押し上げ効果を期待した買いが流入している。ポケットクワは17年10月に初代モデルを発表、11日間で初回生産台数を完売するなど大きな反響を呼び、以降、空港や鉄道などの交通機関、外国人向けアウトソーシングを中心とする企業へ急速に普及。新モデルは本体サイズはそのままに画面は3倍以上大きくなり、タッチパネルを採用、世界105カ国・地域で使えるグローバル通信SIM内蔵で、通信は4Gに対応し、翻訳速度も向上させた。10月には米国でも発売を予定しており、今期連結営業24億9900万円(前期比2倍)は最低ライン、来期も利益倍増が続き見込み。(さ)

ポケットクワで利益倍増つづく

※チャートは日足

自動車押し目に魅力

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

8月最終週は日経平均が2万3000円を抜けてきました。これまで本欄や私の公式ページでは日経平均で2万2200

円割れが下値のメドとし、2万3000円を目指す動きに変化はないと指摘してききましたが、予想通りの動きとなりました。チャートや出来高の少なさから、下値模索を唱えるチャーターストや評論家などが大勢を占めていました。が、8月中旬の調整過程から現状に至るまで夜間での先物取引では下値を拾う動きが活発化して、これは外資に

アンジェスは持続姿勢も

います。TOPIXの戻りが弱くNT倍率の拡大を警戒する向きもありましたが、先物主導では当然の動きであり、あまり気にすることは無いと思います。急ピッチな上昇から2万3000円台乗せ後は流石に上値が重くなっています。ただ、個別では陰線となりながらもプラスを維持した銘柄が反落することなく続伸する動きがみられており、陰線でマイナスとなった銘柄も反発する動きがみられ、総じてしっかりとした展開です。トヨタ自動車(7203)や日産自動車(7201)、ホンダ(7267)などの自動車株がその代表格です。これらの押し目があれば当然買いになるのですが、時価を拾うのも悪くないと思っています。

当欄一貫推奨銘柄のアンジェス(4563)は戻り待ちの売りを消化しながら500円台を完全にキープする展開が続いています。恐らく、5月以前の相場場に戻したことで戻り待ちの売り圧力が強くなると思われるのですが、その売りを堂々と消化して大きく下げずに値を保つこ

よる買いと思われませんが、これにより主力株も戻す動きを強めて、物色範囲も拡がりを見せて

とが予想されます。最悪、470(480円までの押し目をみれば、3月高値の577円を指して上値を取ってくるものと思われま。400円割れを拾った方は一部利益確定しても悪くないとみていますが、基本的には持続姿勢でいいと考えています。

これまでもたもたしていた島津製作所(7701)が出直ってきました。エクセディ(7278)も上値を期待できる動きです。この2銘柄が今回狙います。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市情報
これでどや!!
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の株街往来

～変わらず続けることの難しさ～

今年 は地震や台風、集中豪雨などで数週間前から計画していたものが狂ってしまふことが多々あった。例えば映画鑑賞とか個人的な娯楽ならその日がダメなら翌日などに容易に変更できるが、この時期でしかできないものは台風で中止してしまふと次がなくなってしまうと後悔してしまうことになる。

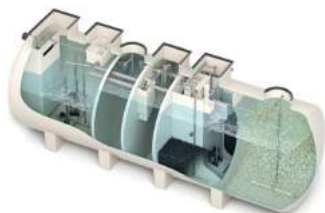
毎年、8月のお盆休み前後は、人生の師匠ともいえる方のお宅にお伺いして、この半年の総括的な会合を行っているが、会合を予定していたときに台風が上陸するという不運になってしまった。ただ幸いなことに暴風雨圏になっても晴れており雨が降ったのは深夜からだったので、開始時刻を前倒しして、強引？にお伺いして無事に開催できた。

毎年、桜の開花期に開催していた新聞業界のOBの方々との花見大会も体調不良者の続出で中止になってしまった。春夏秋冬、変わることなく特定の時期に開催し続けるのは大変なことだ。そんな会合に参加できることは人との変わらぬ繋がりを維持できる意味でも有難いと思っっている。感謝の一言に尽きる。



New product

クボタ コンパクトタイプ大型浄化槽 中・大規模クラスでは業界最小



クボタ(6326)傘下のクボタ浄化槽システムは、省スペースで施工ができ、同時に工事費用も削減可能な、流量調整

クボタ浄化槽 KRZ型 槽を有する中・大規模浄化槽では業界最小となる大型浄化槽「クボタ浄化槽 KRZ型」の販売を開始した。

環境省が「省エネ型中・大型浄化槽システム導入推進事業」に関わる補助金制度を設定し、省エネ効果が高い新型浄化槽への入れ替えを進めていることに対応したコンパクトタイプの大型浄化槽で、既存設備を有効活用しての改修を可能にするとともに、新設においても、工事費の低減に貢献することができる。FRP製だけでなく、鉄筋コンクリート製の槽とFRP製の槽を組み合わせた独自のハイブリット型をラインアップ。特に大規模な案件では、鉄筋コンクリート製の深型流量調整槽とFRP製の槽を組み合わせることにより、省スペース施工が可能となる。

「ロイヤルパークスER万代」竣工

大和ハウス工業

新潟最大級の複合高級マンション



ロイヤルパークスER万代 2018年9月24日に竣工した。新潟県最大級の複合高級賃貸マンション「ロイヤルパークスER万代(ぼんだい)」が、8

大和ハウス工業(1925)とリビングギヤラリー(新潟市)がJR新潟駅から徒歩9分の場所に建設を進めてきた防災医療拠点の機能をもつ複合高級賃貸マンション「ロイヤルパークスER万代(ぼんだい)」が、8

貸マンション(サービスアパートメント含む)、111室のシアハウス、食堂、医療モール(予定)などを併設。国内外の長期出張者向けに1階エントランスホールでは、英語対応可能なコンシェルジュによるインフォメーションサービスを用意し、屋上に災害時のための緊急救助用のホバリングスペースを設置している。停電時に利用可能な非常用エレベーターや、帰宅困難者の受入れ場所なども確保。JR新潟駅や万代シティバスセンターが徒歩圏内にあり、商業施設や飲食店へも近く、通勤や生活に便利な立地で、自動車に依存することなく生活ができる。

企業レター



日経225先物日足チャート

敏腕先物ディーラー ハチロクの裏話

高値奪還前に調整か？

相場自体強く突っ込み買い

先週の日経平均は8日連続で上昇し、上昇幅は約670円となった。30日には2万3032円17銭の高値を付けたが、5月21日の高値2万3050円39銭には届かなかった。4回目の高値更新チャレンジであったが連騰疲れのためか勢いがなかった。日経平均では高値チャレンジであったが、TOPIXで見るとまだまだ水準は低い。

TOPIXの直近高値は7月27日の1775.76ポイントであったが、現在のTOPIXは約1730ポイントである。相場全体の動きを表すTOPIXの動きは盛り上がっていないというところだ。それ故にNT倍率も5月21日は12.68倍だったが現在は13.15倍となっており、日経平均に連動する銘柄だけが集中的に買われていることがわかる。

4回目の高値チャレンジが失敗かどうかはこの上昇で形成した「窓」を埋めるかどうかであろう。24日(2万2602円24銭)〜25日(2万2682円39銭)で「窓」を形成している。この窓を埋めるような下落になれば上昇は一服となろう。目次ト的には1万2540円処に

位置しているが、このラインを割ってくるとチャートは崩れることになる。その際の下値は前回記載した下値抵抗ライン2万2100円前後までは下落する可能性がある。

「窓」を埋めずに日柄調整の高値取りを期待するが、今週には米国が中国の輸入製品の対し200億ドルの追加関税を発動すると噂されており、発動により中国の行動によっては相場にとつて波乱要因となる。相場自体は強いと思われるため「突っ込み買い」で対応したい。今週は2万2300円から2万3150円を想定する。(ハチロク)

岐阜市内の病院で80代の入院患者4人が相次いで亡くなった。先月20日から3階と4階のエアコンが故障、患者は1週間ほど冷房のない状態におかれていたが、病院側は全員を病死として熱中症が死因であることを認めず、警察や市に報告をしていない。警察が自宅捜索を行った28日夕方にももう1人の患者が亡くなっている。

ひどい話だが、これも一つの老人医療の実態かもしれない。病院の責任を厳しく追及することはもちろん、行政の監視体制にも問題はなかったかと思う。

編集後記

今週のスケジュール

- ・ 31日 中国8月製造業PMI、中国8月非製造業PMI (10:00)
米8月シカゴ購買部協会景気指数 (22:45)
- ・ 3日 4-6月期法人企業統計 (8:50)
8月新車販売台数 (14:00)
- ・ 4日 マネタリーベース (8:50)
米8月ISM製造業景況指数 (23:00)
- ・ 5日 10年国債入札
米7月貿易収支 (21:30)
- ・ 6日 米8月ADP雇用統計 (21:15)
米7月製造業受注、米8月ISM非製造業景況指数 (23:00)
- ・ 7日 7月家計調査 (8:30)
7月毎月勤労統計調査 (9:00)
7月景気動向指数 (14:00)
自民党総裁選挙告示
米8月雇用統計 (21:30)

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。